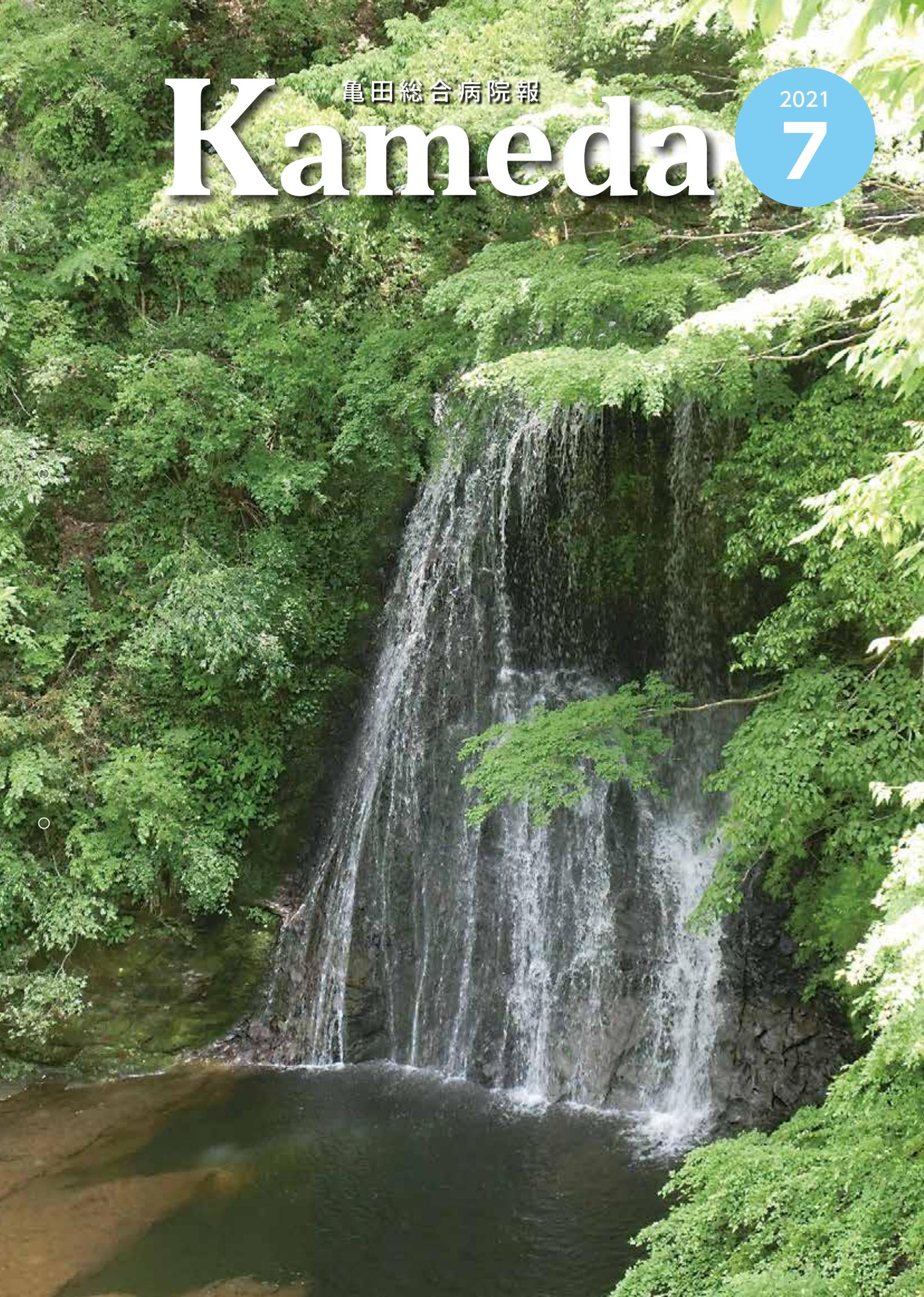


亀田総合病院報

Kameda

2021

7



地域における医療連携の強化にむけて

医療法人鉄蕉会 理事長 亀田隆明

6月に入りましたが、未だ大都市圏の緊急事態宣言は解かれず、オリンピックの開催も危ぶまれています。新型コロナウイルス感染症収束への方法で確実なのは、国民全体への一刻も早いワクチン接種であることは諸外国の例を見ても明らかです。亀田クリニックも集団接種会場として安房3市1町とともに、できるだけ短期間により多くの方への接種が完了するよう、日曜日ごとに最大4,000名の受け入れを行っています。かつてない大オペレーションを無事完遂できるよう、引き続き、職員一丸となって取り組んでまいります。

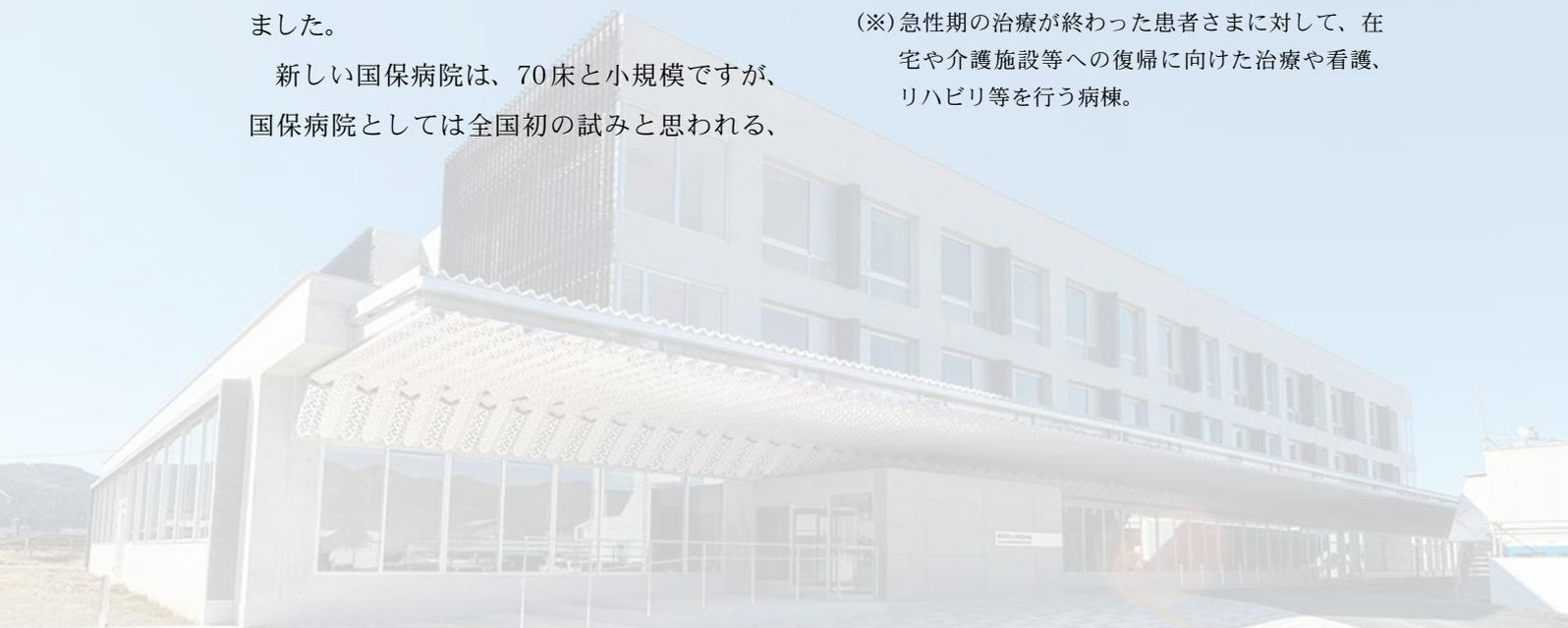
医療法人鉄蕉会は、昨年鴨川市と、建て替えが完了し5月から運用が開始された鴨川市立国保病院の「健全な経営と地域の方々への利便性向上、あわせて、地域における医療連携の強化」を目的とした包括的な協定を締結いたしました。

新しい国保病院は、70床と小規模ですが、国保病院としては全国初の試みと思われる、

全室個室、さらにほとんどの病室が室料無料という、コロナ禍にあって理想的なものとなっております。亀田総合病院は高度急性期病院として一層の充実を図り、地域包括ケア病棟^(※)を中心とする鴨川市立国保病院との連携を進めてまいります。

その一環として、この4月より国保病院の院長に亀田リハビリテーション病院の小山照幸副院長が就任され、総看護師長には亀田総合病院の元看護師長だった丸山陽子氏が就任されました。また、リハビリスタッフも出向し、応援体制を整えています。今後地域の皆様への貢献を大いに期待しておりますので、職員の皆さま、市民の皆さま、市長をはじめとする市の職員の皆さまの応援をお願いいたします。

(※)急性期の治療が終わった患者さまに対して、在宅や介護施設等への復帰に向けた治療や看護、リハビリ等を行う病棟。



職場最前線

78

《産後骨盤ケアチーム》



注：撮影のためにマスクを外しています

写真：前列左から 高橋知子医師、藤島淑子医師
後列左から 浅井ちなみ理学療法士、三國和美助産師、安倍美紀理学療法士

欧米では、「骨盤底筋^{*}は女性にとって大事」という考えが社会的にも広く知られており、とりわけフランスはその意識が高いそうです。

亀田京橋クリニックでも、消化器外科の高橋知子部長がリーダーとなって、女性の骨盤底を大切にする啓蒙活動に取り組んでいます。

今回は、女性の社会進出をかげで支えるチームの活動についてお話をうかがいました。

※骨盤底筋：骨盤の底（恥骨、尾骨および坐骨の間）に位置する筋肉の総称を「骨盤底筋」と呼びます。文字通り骨盤を底から支える筋肉群で、骨盤内にある膀胱や子宮、直腸などの臓器を正しい位置に保ち、尿道を締めて尿もれを防ぐなど、臓器の下垂を守るハンモックのような重要な役割を担っています。

産後骨盤底リハビリはもはや常識!?

骨盤底全体のことをフランス語で「ペリネ」と言うそうで、フランスではペリネケアのためのリハビリ施設が広く普及しており、出産に起因しているかどうかにかかわらず、ペリネケアには保険が適用されます。

最近では、日本でも産後に骨盤矯正を受ける方が増えていますが、まだこうしたペリネケアに対する考え方が一般的ではないため、産後の体型をもとに戻すために無理なダイエットをしたり、きつい補正下着を自己流で着用したりする人がいます。

実はこの時期の正しいペリネケアが、その後の骨盤底のQOL(生活の質)に大きくかかわってきます。

『ガスケアプローチ』とは?

フランスで注目される、総合的な尿もれ対策を目的とした「ガスケアプローチ」は、フランス人医師ベルナデット・ド・ガスケ女史によって確立されたもので、正しい姿勢と呼吸法でペリネ(骨盤底筋群)に働きかけるプログラムです。女性が一生を通して自らのペリネを大切に保護すること、それが尿失禁や子宮脱などに代表される骨盤底機能不全の予防につながるというものです。

亀田の取り組み

骨盤底筋のゆるみなど骨盤内臓器に起因するさまざまなトラブルの中には骨盤臓器脱や便失禁、便秘、尿失禁などが含まれます。このような女性特有のさまざまな症状について、亀田グループでは早くから消化器外科、婦人科、泌尿器科、ウロギネ科などが積極的に治療を行ってきました。

特に、骨盤底筋が腹腔内の臓器を定位置で支えることができなくなると、圧迫された臓器周辺でさまざまな症状が出てきます。膀胱を圧迫すれば尿もれや頻尿に、子宮を圧迫すれば子宮脱に、そして大腸を圧迫すれば便もれなどの症状です。

しかしこうした症状は、あまり人に知られたくありませんし、そもそも何科を受診すれば良いのかもわかりません。そのため大半の人が特に治療もせず、不自由を我慢してやり過ごしてきました。しかし現代のように女性の活躍の場がさまざまな年齢層で広がってくると、疾患の認知度も上がり、それに伴い早くから予防を意識したり、専門医を受診してしっかり治療することが当たり前になってきました。

このような状況下で、亀田では、婦人科、泌尿器科、消化器外科などの専門医が連携し、ウロ(泌尿器科)

ギネ(婦人科)コロジー(消化器外科)診療をいち早くスタートしました。

“女性にやさしいクリニック”をひとつのコンセプトとする亀田京橋クリニックで、2019年4月から「産後骨盤トラブル外来」がスタートしました。

これは、前述のガスケアアプローチの考え方をもとに、すべて女性スタッフで、しかも全員「日本ガスケアアプローチ協会」の研修履修者で構成されています。

産後骨盤トラブル外来(京橋)とは

中心メンバーの消化器外科部長の高橋知子医師は、排便障害を専門とした直腸肛門外来を行ってききましたが、排便障害を訴えて受診する患者さまには女性が多く、排便だけでなく排尿障害や骨盤臓器脱など複数の骨盤底障害を合併していることや、出産経験のある女性に多いことに気がついたそうです。



そこで高橋医師は、骨盤底に大きく影響すると思われる出産直後から積極的に関わることで便失禁だけでなく排尿障害や骨盤臓器脱症状などの発生を予防し、症状のある方には、症状を軽減することに効果があるのではないかと考えるようになりました。

排便・排尿・骨盤臓器脱それぞれの専門医師や、妊娠・分娩期指導に詳しい助産師、骨盤底リハビリを担当する理学療法士など、各専門領域の医療者がチームとして治療にあたるのが、子育てに忙しい女性にはメリットがあると考え、数年かけて見どころのある人材を自らスカウトし、2019年4月に「産後骨盤ケアチーム」を結成しました。

理学療法士の安倍美紀さんは、「当時は、これまで自分が勉強したことではどうしても治せないものがあると悩んでいました。専門のチームならば答えが見つかるかも知れないと参加しました」とのこと。

最初は、周囲の人たちにチームの意義をなかなか理解してもらえず苦労も多かったようですが、活動を通じて患者さまから感謝されたり、SNSで発信した内容を見て入職希望者が現れたりしたことで、一歩ずつ前に進んできたが高橋医師。

産後骨盤ケアチーム (Coral Body Works) の誕生

産科を標榜していない亀田京橋クリニックで産後骨盤トラブル外来を開設したのは、出産後に骨盤底トラブルで困っても、すぐに見てくれる専門病院が都内でも案外ないことがわかったからでした。

でも妊娠・出産も大変ですが、そ

の後の人生の方がずっと長いのですから、QOLの低下に目をつぶって良いわけがありません。そこで、高橋医師は、総合周産期母子医療センターを持つ鴨川の本院においても活動するケアチームを立ち上げました。それが「産後骨盤ケアチーム Coral Body Works」です。

産後骨盤ケアチームの愛称をなぜ「Coral Body Works」としたかについて、高橋医師は「Coralは珊瑚という意味で、漢字に変換すると＜産後＞となります。女性は＜出産＞を経て、子どもという素晴らしいギフトを与えられるかわりに、出産後にその代償としてほとんどの女性が、産道周囲の組織、いわゆる＜骨盤底筋＞や＜腹壁の筋肉＞に大きなダメージを受けるから」と教えてくれました。

チームのロゴマークもあり、海をイメージさせるターコイズブルーに、珊瑚色のロゴをあしらったおそろいのスクラブが決まっています。

また新米ママは、家事全般をこなしながら慣れない赤ちゃんのケアで忙しく、つい自分のことは後回しにしがちですが、いつまでも元気に活躍するためにも、産後のボディメンテナンスは絶対に欠かせません。

【チームの特徴】

- ・ 排尿のトラブルと子宮下垂が専門の産婦人科医、排便のトラブルと肛門疾患が専門の消化器外科医、産後のケアやリハビリを専

門とする助産師と理学療法士で構成されたチームで診療します。

- ・ 月1回、合計4回の受診で診察・日常生活の指導、リハビリテーションをコンパクトに行います。
- ・ 診察担当者は全員「日本ガスケアプローチ協会」の研修履修者です。

【対象となる方】

- ・ 出産後すぐから、出産後5年程度の方

- ・ 分娩形式は問いません

※産後の尿もれ、便もれは経膈分娩（いわゆる正常分娩）のみで起こると思われがちですが、妊娠中から影響を受けるため、帝王切開で出産された場合も起こります。

- ・ 産後からつづく排尿のトラブル

※咳やくしゃみをした時に尿がもれる、トイレに間に合わず尿がもれてしまう、尿が出にくい、頻尿

- ・ 産後からつづく排便のトラブル

※気づかないうちに便が下着についている、トイレに間に合わず便がもれてしまう、肛門がゆるんだ感じがする

- ・ 会陰部の下垂感、脱出感

※夕方になると下腹部や膈の辺りに下垂感、脱出感がある

- ・ その他

骨盤がゆるんだ感じがする、歩きづらい

出産後いつからスポーツを始めて
よいか相談したい
今後の骨盤底の健康のためにエク
ササイズしたい

【料 金】 自費診療

1回目 33,000円(税込)
2～4回目 11,000円(税込)／回
※いずれも検査・リハビリ費用を
含みます

【診察にかかる時間】

1回目受診：約1時間
2回目以降受診：約30分

【完全予約制】

亀田京橋クリニック
外来予約センター
03-3527-9201
*電話受付時間 8:30～17:00

最新情報は、ホームページや以下の
SNSを確認を。



[https://www.facebook.com/
kameda.sangkokotsuban/](https://www.facebook.com/kameda.sangkokotsuban/)

スタッフ紹介

産後骨盤ケアチーム スタッフ (敬称略)

高橋知子	医師 消化器外科部長 チーム代表者
三國和美	助産師 非常勤
安倍美紀	理学療法士 非常勤
浅井ちなみ	理学療法士 リハビリテーション室
須貝 朋	理学療法士 リハビリテーション室
(サポートメンバー)	
藤島淑子	産婦人科医師 非常勤

**産後骨盤ケアチーム
広がる活躍の場**

①亀田クリニック「直腸肛門外来」

当院は千葉県の総合周産期母子医療センターを併設しているため、年間約800例の分娩を取り扱っています。産婦人科部長代理の末光徳匡医師と三國和美助産師とで、当センターで出産した母親を対象としたアンケートを行い解析した結果、7割以上の方に何らかの骨盤底障害があることがわかったそうです。そこで当院で出産された方のアフターケアを、出産直後から関われるよう、毎週月曜日の午後に「直腸肛門外来(女性専用)」を開設し、診察を行っています。

妊娠・出産後からつづく尿もれ、便もれ、子宮などの下垂感といった産後の骨盤トラブルと、痔核などの肛門疾患などに対し、専門的な見地から診断・治療を行い、これまで受診者のほぼ100%の方が症状の改善を見たそうです。

この日「直腸肛門外来」を訪れたのは、2週間前に当院で出産された方で、尿意が感じられず、助産師さんから紹介されて受診したAさん。

高橋医師の診察では、前回の受診からおしっこの出方を記録してもらった内容などをチェックし、ご本人も感覚が戻ってきたとのこと。ウロフロー*と残尿測定で確認したところ、かなり改善したことがわかり

ひと安心。ご本人の感覚だけでなく、機器による測定値をあわせて確認することでより理解が深まります。

その後は別室で、安倍理学療法士による正しい姿勢チェックや、骨盤底筋を腹式呼吸で横隔膜と共に引き上げるセルフケアの方法や生活指導が丁寧に行われました。きちんと訓練を積んだスタッフに教えてもらったセルフケアは、生涯にわたって役に立つということがわかります。



診察風景



正しい姿勢チェック



セルフケアの指導

診察しただけでは、時にはバイオフィードバック訓練*なども取り入れますが、地道に取り組むことで手術にならない人が圧倒的と高橋医師。なかには次の出産をあきらめていた方が、この外来でQOLが改善したことで、2人目、3人目を出産される方もいらっしゃるそうです。

※**ウロフロー**：ウロフロメトリー検査の略。ウロフロメトリー検査とは、尿の勢いを測定する検査で排尿障害の程度を調べるために行われ、尿流測定ともいう。

※**バイオフィードバック訓練**：骨盤底筋の収縮をモニタリングしながら行う骨盤底筋訓練。コンピュータとセンサーを使い、締める力を圧力の変化としてモニターに表示できるため、患者さま自身も画面を見ながら自分の力の加減を確かめられ、筋肉の使い方の理解がより深まります。

②千葉県勝浦市の委託事業 「産後ゆるやか骨盤エクササイズ」



少子高齢化が加速する千葉県南東部の各自治体では、人口減少に歯

止めをかけるためにさまざまな施策を打ち出しています。特に現在のコロナ下の働き方として、家賃や生活費の安い田舎に引っ越し、リモート勤務をしながらのんびり子育てしたいというニーズに対し、首都圏からの移住者の呼び込みや、子育てのしやすさを積極的にアピールしています。

2018年にはじまった千葉県勝浦市の「産後ゆるやか骨盤エクササイズ」も3年目を迎え、今年度もコロナ感染対策に十分留意しながら実施しています。チーム専属の理学療法士数名と高橋医師が担当し、出産でゆるんだ骨盤まわりのケアと姿勢を保つ基礎トレーニング方法を指導します。

育児では前かがみ姿勢になる事が多いため、参加者も猫背になっていたりと、肩こりや腰痛を訴える方が多かったため、「一番前かがみになりがちなのは授乳時の正しい姿勢と、肩周りのストレッチなどを参加者で行います」と須貝朋理学療法士。



このグループレッスンは勝浦市からの委託事業として、勝浦市在住で出産された方を対象としていますが、現在は勝浦市への里帰り出産の方にも参加していただけるようになりました。

参加希望者は、勝浦市福祉課子育て支援係へお問い合わせください。

③助産学科への骨盤ケア出前授業



亀田医療技術専門学校助産学科で学ぶ未来の助産師に向けて、産後骨盤トラブル外来で対応した産後に起こるさまざまな骨盤トラブルについて高橋医師と三國和美助産師が講義しています。

産後に尿失禁や便失禁、膣の下垂感や骨盤のゆるみがどうしても起こるのか、出産後半年以上経っても困っている人が少なからず存在すること、そのような人に助産師としてどのようなケアができるのかについて、分娩時括約筋損傷の病態や治療を踏まえながら授業を進めます。終了後、受講者からは「産後の骨盤トラブルにも寄り添えるようになりたい」など心強いコメントが聞かれて、うれしくなるそうです。

④骨盤底メディカルフィットネス 外来(自費診療)

亀田クリニック5階の亀田スポーツ医科学センターで、安倍、須貝、浅井の3名の理学療法士が担当します。完全予約制です。

- ・プレミアムコース
50分
5,250円(税込)
- ・ベーシックコース*
30分
3,150円(税込)

※プレミアムコース後のアフターケアとしてもおすすめ。

チームの課題

現在のチームメンバーについて高橋医師は、「勉強家ぞろいで、他の人にはできないスキルを身につけている」と言います。例えば助産師は、産後の身体的ケアだけでなく、メンタル(産後うつ)にも気を配り、ちょっとしたしぐさなどで「おや?」と思ったら話を聞き、必要であれば産後うつ専門の心療内科を紹介し、子育てや家庭生活全般に気を配ります。

理学療法士は、排尿・排便トラブルに関して、どんな病態か、どんな検査が必要か、検査データの診かたについては医師の指導を受け、知識を持っています。

高橋医師は、現在のチームメンバーはベストメンバーだけれども、「仕事も家庭もがんばり、自分のこともあきらめない」で、個々がプロとして自立できるようにしたいと願っているとのこと。そのためお互いにスキルを磨き、学会発表などにも力を入れています。

現在は非常勤のスタッフにも頑張ってもらい、細やかにチーム編成を変えてさまざまな活動を行っていますが、やはりメンバーの補強が必須です。これからチームスタッフも、仕事と家庭の両立に悩むことも出てくるでしょう。高い能力を兼ね備えた助産師や、理学療法士を育成することが課題のひとつと高橋医師は話しています。

これからの展望

勝浦市の「産後ゆるやか骨盤エクササイズ」のように自治体が女性のペリネケアに理解を示して下さること、もっと言うならば、かのフランスのように、女性のQOLをあげる大切な取り組みとして、国の施策としてくれることを大いに期待したいところです。地方の少子高齢化は、現状新型コロナの影響で吉と出るか凶と出るかの分かれ目にいます。この危機を追い風とできるかどうかは自治体の本気度で決まることで

しょう。

さきごろアメリカのハーバード大学が、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行による影響について、世界64か国の妊婦や産後の女性にオンラインでアンケートを行った結果を発表しました。やはり妊娠中や出産後の女性の3~5割に不安やうつ症状、孤独感などの心理的な影響が見られたということです。

記事では、自分の健康上の心配事に加え、子どもの発育への不安が新たなストレス要因となっている可能性を指摘しています。高橋医師によると、コロナ下では「母親学級」が開催できないため、特に初産婦さんの不安が大きいことを感じるそうで、里帰り出産もしにくいと、周囲に相談できる人もいないため「抱っこは横抱きで大丈夫ですか?」といったようなことを聞いてくるケースがあるそうです。

産後骨盤ケアチームの活動が、妊婦さんや子育て中の女性のさまざまな不安を解消し、慌ただしい中にも豊かで充実した、晴れやかな時間を少しでも持てるお手伝いができるよう願っています。

CLOSE UP NEWS

クローズアップニュース

2021年度 医師初期研修

本年度臨床研修課程の初期研修医として第35期生24名が採用され、34期生23名とあわせて47名が臨床研修をスタートさせました。

各医師の氏名は次の通り。(敬称略)

《1年次生》

○ 亀田初期研修プログラム

- ・石田 裕也(東京医科歯科大学)
- ・大場 俊輝(北里大学)
- ・久保田 泰弘(弘前大学)
- ・鄭 昌原(延世大学校)
- ・関 美月(岡山大学)
- ・松田 恵実(東北大学)
- ・光石 清人(東北大学)
- ・百浦 恭平(滋賀医科大学)
- ・森川 遥香(琉球大学)
- ・吉田 恭子(東京医科歯科大学)
- ・伊原 賢吾(昭和大学)
- ・牛田 雄太(東京医科歯科大学)
- ・及川 孔(福島県立医科大学)
- ・栗岡 辰典(昭和大学)
- ・輿石 佳那(旭川医科大学)
- ・成家 悠太(東京大学)

○ 亀田産婦人科プログラム

- ・佐藤 真子(昭和大学)
- ・西村 直子(高知大学)



○ 亀田小児科プログラム

- ・柏木 淳史(北里大学)
- ・津田 正太(東邦大学)

○ 地域ジェネラリストプログラム

- ・金井 祐樹(東京大学)
- ・河邊 健人(愛知医科大学)
- ・五藤 沙也香(日本医科大学)
- ・山田 壮史(島根大学)

《2年次生》

○ 亀田初期研修プログラム

- ・相川 未希(大分大学)
- ・芦名 功平(千葉大学)
- ・河合 太樹(東京医科大学)
- ・栗田 正幸(北里大学)
- ・竹下 学(山梨大学)
- ・三石 一成(筑波大学)
- ・岡部 宏樹(徳島大学)
- ・青木 沙弥佳(旭川医科大学)

- ・関根 一樹(福島県立医科大学)
- ・高橋 良汰(横浜市立大学)
- ・三好 翔輝(琉球大学)
- ・柳本 達摩(岐阜大学)
- ・柴田 泰佑(佐賀大学)
- ・土井 彩奈未(北里大学)
- ・安藤 司恩(東邦大学)

○ 亀田産婦人科プログラム

- ・長山 理依(大分大学)
- ・渡邊 桜(東北大学)

○ 亀田小児科プログラム

- ・飯島 文香(東京女子医科大学)
- ・上野 健(千葉大学)

○ 地域ジェネラリストプログラム

- ・斉藤 聡大(琉球大学)
- ・長嶋 友希(高知大学)
- ・西方 一将(弘前大学)
- ・森川 敬太(東京大学)

2021年度 歯科医師臨床研修

歯科医師卒後研修室では、研修歯科医として以下の8名が採用され、辞令交付が行われました。(敬称略)

- ・田畑 友寛(昭和大学歯学部)
- ・内藤 菜弓多(昭和大学歯学部)
- ・長谷川 奏(岩手医科大学歯学部)
- ・長谷川 陽(東京歯科大学)
- ・林 真由子(東京歯科大学)
- ・宮本 聖(昭和大学歯学部)
- ・村岡 恵之介(昭和大学歯学部)
- ・吉江 健(東京歯科大学)



亀田カイゼン・アワード2021

4月30日(金)午後1時から亀田総合病院大会議室にて、「亀田カイゼン・アワード2021」発表会・表彰式が行われました。これは、職員の自発的な業務改善活動を組織的に促進するための表彰制度として、組織改革プロジェクト・業務改善チームが企画・創設。第1回となる今年度は2020年1月～12月までの業務改善の取り組みを対象に2020年12月24日～2021年2月1日の期間で提案募集が行われ、全事業所から98の改善提案がエントリーされました。

その後、50名の審査担当所属長による一次審査を経て、大賞候補33提案から、大賞(理事長賞)、本部長賞、院長賞、特別賞が選考され、大賞には、京橋PCRチームの「海外渡航前PCRによるクリニックの収益改善」が輝きました。

亀田京橋クリニックでは、京橋という立地を活

かし、コロナ禍で海外渡航前の必須要件とされているPCR検査の証明書発行を感染の第一波が収束した6月から開始。京橋と検査を実施する鴨川とのコミュニケーションや資料の共有をOffice365 Teamsに集約したことや、既存の健診予約システムを応用活用したことにより、スピーディーなサービス立ち上げを実現しました。

京橋PCRチーム代表者である経営企画室の小迫正実さんによれば、「オンライン予約から検査当日中の陰性証明書の発行、渡航先104カ国の要件に合わせた証明書作成などを工夫により運用可能としたことで、各企業からの信頼の獲得に繋がりました。PCR証明書発行の事業が本格化した8月からは黒字収支に貢献することができた」と言います。

審査委員からは、逆境を利用した新しい発想が経営改善に寄与したことが高く評価され、チームを代表して小迫さんに表彰状と賞金が亀田隆明理事長から贈呈されました。



「亀田カイゼン・アワード2021」の授賞提案は以下のとおり。

【大賞(理事長賞)】

チーム名	京橋PCRチーム
代表者	小迫正実(経営管理本部経営企画室)
提案名	海外渡航前PCRによるクリニックの収益改善

【最優秀経営改善賞(経営管理本部長賞)】

チーム名	亀田クリニック事務室医事課
代表者	井上暢之(亀田クリニック医事課)
提案名	診療報酬収益確保対策

【最優秀医療改善賞(医療管理本部長賞)】

チーム名	業務効率化・負担軽減委員会
代表者	入月修司(亀田総合病院看護部)
提案名	時間外削減にむけた5つの提案

【最優秀IT活用賞(情報管理本部長賞)】

チーム名	亀田クリニック業務改革チーム
代表者	柚木昂(経営管理本部経営企画室)
提案名	休診申請のシステム化

【最優秀品質改善賞(品質管理本部長賞)】

チーム名	画像システム委員会
代表者	箕輪綱平(亀田総合病院画像診断室)
提案名	医用モニタの一括管理による医療の質及び環境改善

【亀田総合病院長賞】

チーム名: 循環器デバイス関連対策チーム(ME室)
内容: MRI撮像時のデバイス対応に関する業務関連のタスクシフト

【亀田クリニック院長賞】

チーム名: 健診システム運用改善プロジェクト(情報戦略室)
内容: 健診システムを活用したワクチン接種実施記録のカルテ連携

【亀田リハビリテーション病院長賞】

チーム名: カンファレンス改訂チーム(リハビリテーション室)
内容: カンファレンス時間の短縮と業務効率化

【亀田ファミリークリニック館山院長賞】

チーム名: インフルエンザ予防接種推進チーム(京橋クリニック)
内容: インフルエンザ予防接種における売り上げ増および人件費削減

【幕張クリニック院長賞】

チーム名: ADL回診チーム(リハビリ病院)
内容: 病棟日常生活動作の多職種共有会議立ち上げ

【MTGクリニック院長賞】

チーム名: Team京橋人間ドックWG
内容: コロナ禍のソーシャルディスタンスを保ちながらドック受診者増員

【IVFクリニック院長賞】

チーム名: IVF_Webstreamチーム(IVFクリニック)
内容: 患者向けセミナーのWeb化および説明会動画のストリーミング配信

【森の里病院長賞】

チーム名: COVID-19対策チーム(地域感染症疫学・予防センター)
内容: レッドゾーンにおける書類の処理、面会対応、職員の健康チェック、ST対応などチームメンバーとの情報共有

【京橋クリニック院長賞】

チーム名: 研修オンライン化促進チーム(京橋クリニック)
内容: 研修のオンライン化と受講後アンケートのペーパーレス化

【業務改善特別賞】

チーム名: ペーパーレス改善チーム(情報戦略室)
内容: ぴーでいーえふつくるさんv1

Customer Voice AWARD 2020



5月6日(木)午後1時より、「Customer Voice AWARD 2020」の授賞式が亀田総合病院A棟9階小会議室で開催されました。

「Customer Voice AWARD」は、患者さまやそのご家族より退院時に主にカスタマーコンタクトセンターに寄せられたお声の中から、特にお褒めをいただいた職員や部署を表彰するものです。

2020年度は以下の3部署が選ばれました。

- ・看護部 B棟6階
- ・看護部 手術室
- ・施設管理課 清掃係

看護部の受賞は、患者さまにとって、やってもらうとありがたいと思う患者さまの気持ちに寄り添う看護師の姿勢や、患者さまの不安を少しでも

取り除こうとする会話や笑顔などの対応に対して。また清掃係では、仕事がとても丁寧で手抜きをせず、黙々と取り組む姿勢などが、それぞれ患者さまやそのご家族さまより感謝の声をいただいていた受賞となりました。

授賞式では、部署を代表してB棟6階の村川真澄師長と佐久間舞子看護師、手術室の赤穂海香師長と恒吉春奈主任(手術室)、施設管理課清掃係の苅込敏明係長が出席し、亀田俊明病院長より表彰状が手渡されました。

受賞者の皆様からは、次のような感想をいただきました。「このような賞をいただき大変感謝いたします。まだまだ、至らない所が多々ありますが、この受賞を励みにして頑張りたいと思います」(看護部B棟6階)。「手術室は、病棟とは違って患者さまからお声をいただくことが少ない部署のため、このように患者さまの声をいただけるのはスタッフの励みになります。手術が安全・安心になるようこれからも努力して行きたいと思います」(看護部手術室)。「今回このように表彰をしていただきありがとうございます。清掃係としてひとつの自信として今後の業務に取り組みたいです。今後とも指導よろしく願いいたします」(施設管理課清掃係)。

新型コロナワクチン 亀田クリニックを会場に集団接種がスタート

5月16日(日)・23日(日)の2回に分けて、地域の医療従事者向け集団接種が亀田クリニックを会場に行われました。

亀田クリニックでは、自治体からの委託を受け、安房地域の集団接種会場の一つとして、休診日の日曜日を使ったワクチンの集団接種に対応、協力しています。

5月16日は237人、23日は236人の医療従事者に対して、1回目となるワクチン接種を実施いたしました。接種にはファイザー社のワクチンが使用されているため、3週間後の6月6日(日)・13日(日)にそれぞれ2回目の接種を行います。

また医療従事者に続き、65歳以上の高齢者の皆さまへの集団接種が6月20日(日)よりスタートいたします。こちらは日曜日ごとに1日最大4,000名の受け入れを行う計画となっており、かつてない大オペレーションを、事故なく、確実に、スピード感



をもって対応するため、安房地域の医療従事者が一丸となって取り組んでまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

鴨川市立国保病院と医療連携体制を強化

5月19日(水)午後、当法人の亀田隆明理事長と亀田俊忠名誉顧問が開院したばかりの新「鴨川市立国保病院」(鴨川市宮山233番地)を訪問。小山照幸院長を激励するとともに、新病院の視察を行いました。

医療法人鉄蕉会と鴨川市は昨年11月、鴨川市立国保病院の「健全な経営と利用者(市民)の利便性の向上、あわせて地域における医療・介護等の包括的サービスネットワークの確立」を目指し、協定を締結しました。

これを受け、今年4月から亀田リハビリテーション病院副院長でリハビリテーション科部長の小山医師が院長として同病院に赴任、5月からは直前まで亀田総合病院で看護師長を務めていた丸山陽子氏が総看護師長として着任しました。また、リハビリテーション事業部からもセラピスト1名が出向するなど、人材支援から連携事業がスタートしています。

“市民に親しまれる地域の中核病院”を目指す新「鴨川市立国保病院」は、鉄筋コンクリート一部鉄骨造りの3階建て。外来診療にかかわる施設を1階に集約させ、2・3階が入院病棟となっています。病床数は70床で、このうち一般病床[地域包括ケア病床]は52床、療養病床は18床です。病室はプライバシーや感染症に配慮し、経過観察室以外はす

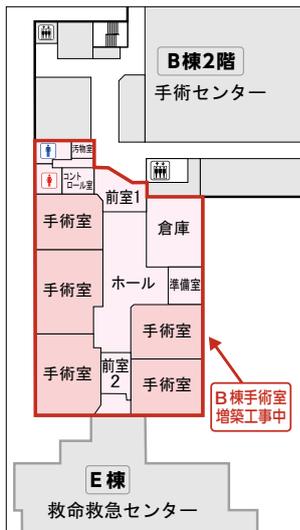


べて個室です。在宅や介護施設等への復帰に向けて、患者さまがトイレトレーニングしやすいように、ベッドサイドにトイレを設置し、カーテンレールで仕切るつくりになっている部屋もあります。そのほか病棟内にはリハビリコーナーを設け、在宅や介護施設等への復帰に向けたリハビリに取り組みやすい環境を整備しています。

また医療体制の面では、医師、歯科医師、看護師、セラピスト、管理栄養士、薬剤師、連携支援室でチームを構成し、「ときどき入院、ほぼ在宅」を目指し、チームが包括的に情報共有し、一人ひとりの患者さまに合ったリハビリや入退院支援、退院後のケアをフォローしていく体制を構築しています。

小山院長は、「亀田総合病院と連携を密に取り、市民の皆さまが安心安全にかかれる病院となるよう頑張っていきたい」と抱負を語ってくれました。

B棟手術室増設に向け 工事が進む



手術数を年間2万例まで引き上げることを目指し、亀田総合病院B棟手術室の増設に向けた旧脳神経外科病棟の解体工事が5月から始まっています。

解体工事後には引き続き手術室5室の増設工事が行われる計画で、来年4月オープン予定。新型コロナウイルス感染症や肺結核など感染症患者さまの手術もスムーズに行えるよう、国際基準に合致する感染症対応の専用手術室や患者動線も確保する予定です。

工事期間中はご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。



京橋クリニック事務系 新ユニフォーム



5月から亀田京橋クリニック事務系のユニフォームが変わりました。これまでの制服が廃版になることから、一年前から検討してきたとのこと。

人事部の指導のもと、各社のパンフレットを取り寄せ、着用する外来事務室と健康管理センターのスタッフそれぞれに3つずつ候補を挙げてもらい、試着会を実施。着用予定者による投票で決定したそうです。ちなみに、健康管理センターと外来事務室でリボンの色が違います。

自分たちで考えながら選んだものなので、「スタイリッシュで機能的」「着替えが楽になった」「気持ちが一変した」など満足度も高く、患者さまの反応も「パッと華やかになったわね」「素敵ですね」といった好印象の意見が多く、コミュニケーションの輪が広がっているようです。

ジャスティン・スタッフが 35周年記念アルバムをリリース



当院歯科センターの亀田秀次センター長がリーダーを務める医療人バンド「ジャスティン・スタッフ」が、結成35周年を記念したアルバム「FOREVER AND EVER」をリリースしました。

通算11枚目で、「孫の世代まで伝えたい曲を収録したこれまでの集大成といえるアルバムです。ぜひ聞いてください」とPRしています。

ジャスティン・スタッフは、リーダーでボーカルとギターを担当する亀田秀次センター長が医療や福祉に携わる友人らに声を掛け、1987年に立ち上げたバンド。メンバーのドラム担当の小野央さん、



ベース担当の北浦茂さん、ギター担当の熊谷修治さんとともに、オリジナルとアメリカンポップスなどを次々と発表。月1回の定期ライブや、医療問題を取り上げたコンサートの開催など、地域と医療に根ざした活動を展開してきました。

今回のアルバムでは、ピアノの優しい音色とともに愛を歌うバラード「時が今」、夏の恋を軽快に奏でたポップス「危険なトキメキ」など、書き下ろしのオリジナル曲12曲を収録。

当初は今年35周年コンサートを企画していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、開催のめどが立たない状況が続いたため、「活動を続けて来られた証として、記念アルバムだけは完成させようと制作した」とのこと。

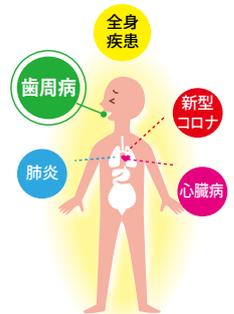
全国のCDショップで販売中。楽曲データはApple Musicなど音楽配信サービスでも購入可能。一部楽曲のミュージックビデオはYouTubeで視聴できます。ホームページもあわせてご覧ください。
ジャスティン・スタッフ公式サイト
<http://www.justinstaff.jp.org/>

医療の



「歯周病」

今号は…



日本人の40歳以上の約80%がかかっていると言われる歯周病。最近の研究で、歯周病やその原因である歯周病細菌が、心臓病や肺炎などの、全身の疾患と関係があることがわかってきました。また、歯周病が新型コロナウイルス感染症への感染や重症化のリスクを高める要因になっているとする研究結果も出てきています。

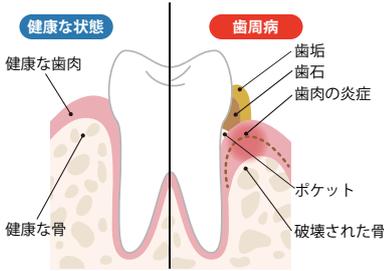
歯科診療科部長
大越林太郎 歯科医師

回答者

Q. 歯周病とは？

A. 歯周病とは、細菌感染により、歯の周りの歯周組織に炎症が生じている病気の総称です。歯磨きが不十分であったり、歯並びなどの理由により磨き残しがあると、歯と歯肉(歯ぐき)の境目に食事の食べかす(歯垢)がたまりやすくなります。その結果、歯周病の原因菌が繁殖し、歯肉に炎症が起き、歯肉の腫れや出血が起きやすくなります(Ⅱ歯肉炎)。

ごく初期なら正しい歯磨きをすれば、歯肉が健康な状態に戻りますが、炎症が深部まで進行し歯を支えている歯槽骨や歯根膜にまで広がり骨が破壊されると(Ⅲ歯周炎)と、歯がグラグラしたり、ものが噛めなくなるだけでなく、最終的に歯を失う恐れもあります。重症化に伴って、治療も大がかりなものになり、時間も費用もかかります。



Q. 歯周病が全身の健康に影響しているって本当？

A. 歯周病はさまざまな全身疾患と関連していることが報告されています。歯周病が進行すると歯周ポケット(歯と歯肉の境目の溝)が深くなり、内面にできた炎症箇所から歯周病菌が毛細血管に侵入し(Ⅱ歯血症)、全身を駆け巡ります。その結果、心内膜で繁殖すると感染性心内膜炎を引き起こします。また、歯周病原菌が産生する毒素や歯周炎によって生じた物質が、血糖値を下げるインスリンの働きを悪くしたり(Ⅱ糖尿病)、早産・低体重児出産、肥満、血管の動脈硬化(心筋梗塞・脳梗塞)にも関与しています。また、歯周病原菌が、誤嚥により肺炎の原因となっているほか、アルツハイマー型認知症と関係があるとも言われています。そのため、お口の健康を維持することは、全身の健康維持にとっても重要です。

Q. 歯周病の予防法は？

A. 丁寧な歯みがき
歯垢はうがいをしただけでは取れません。自分にあつた歯ブラシやデンタルフロス、歯間ブラシを使って、歯と歯肉の境目や歯と歯が重なったところ、歯間などもしっかり汚れを取り除きましょう。

規則正しい食習慣
栄養バランスのとれた規則正しい食生活を心がけましょう。歯垢のもとになる糖分の多い食品のとりすぎにも注意が必要です。

禁煙
タバコは歯周病を悪化させるリスクファクターであり、治療の効果を妨げます。

ストレスをためない生活
規則正しい生活や十分な睡眠、疲れやストレスをためない生活を心がけましょう。

定期検診
半年に1回程度「定期検診」を受けましょう。定期検診では毎日の歯磨きでは取り除けない歯垢・歯石の除去、その人の歯並びや口の状態に合った歯みがきの指導なども行っています。

亀田 本舗

『現代語訳 論語と算盤』

渋沢栄一：著 守屋淳：訳
ちくま新書 902円(税込)



大河ドラマ「青天を衝け」や2024年に刷新される新一万円札の顔として、何かと話題の渋沢栄一氏。明治から大正にかけて設立や経営に関わった企業は500を超え、「日本資本主義の父」と呼ばれた人物である。

渋沢氏は、元々武蔵国の豪農の生まれだが、のちに幕臣として抱えられ、26歳の時に15代将軍・徳川慶喜の弟・昭武を長とする「パリ万国博覧会」の一員として随行。急速な経済発展を遂げたフランスで見聞を広げた彼は、資本主義のシステムを使えば巨額な資金を調達でき、これがフランスの経済発展の原動力になっていることを知り、帰国後の明治6年に民間人の立場で日本初の銀行を立ち上げる。これを皮切りに、鉄道や製造業、ホテル、株式取引所など日本の近代化に必要なさまざまな基幹産業を次々に興し、「近代日本の設計者の一人」として華々しい活躍をしていく。

経済人というイメージが強い渋沢氏だが、「日本の社会福祉事業の創始者」という顔を持つことはあまり知られていない。

完成して間もない鹿鳴館で、日本で初めてチャリティーバザーを開催、貧しい人の救済に奔走するなど、実業以上に福祉活動にも情熱を注いだ。それは、仁義や道徳を欠いた利益追求は社会に大きなひずみをもたらすことをいち早く見抜いていたからだ。

この時代、江戸幕府が瓦解して文明開化を迎えた東京の町には、繁栄から取り残され住む家を失った人が街にあふれていた。かつて100万都市とうたわれた東京の人口は50万人に減少。その6割以上が貧民とされ、食事や寝るところにも困窮する有り様だった。渋沢氏はこの現状に強い問題意識を抱き、何とか方法を考えて貧民の生活を助けなければいけないと考えたのだ。

そんな彼が参考にしたのが、江戸型セーフティーネットとも言える松平定信の「寛政の改革」である。貧民を収容していた養育院の改革として、病人や老人のための近代的な診療設備をつくり、職業訓練所を設けて草鞋づくりなどの技術を学ばせ社会復帰を支援するとともに、子どもたちには学問所をつくり知識を身に付けさせるなど、貧しさを防ぎ、更生していくための取り組みに注力した。しかし、富国強兵論者からは「養育院は惰眠を増やすばかりで維持費は無駄だ」と、当時税金で賄われていた養育院の運営が危機にさらされる。

そこで渋沢氏がとったのは、いつ打ち切られるかわからない税金に運営を頼るのではなく、民間資金で運営を継続させる方法だった。鹿鳴館でのオークションや財界の篤志家を一人一人訪ねて多くの財界人から寄付を仰いだのだ。渋沢氏は自らが率先して寄付をすることで、当時、寄付文化など馴染みなかった日本社会で、着実に運営資金を確保していくことに成功している。

得た富は己で独占するのではなく、多くの人に還元することで経済を好転させる：『論語と算盤』にはそんな渋沢氏の哲学が濃厚に詰まっている。(蝸牛庵)

世界のぞき窓



最終回

室長と私

かすていら
文明堂

コロナ禍ですっかり忘れていたが、昇進の季節である。室長も定年を迎え、顧問へとクラスアップする運びとなった。大変ありがたいことに私もクラスアップさせていだいた。明らかに新人とは呼べない立場と年齢になってまず気づいたのは、他部署の若い方が一生懸命こちらの言うことを聞いてくれるということだ。つまらないギャグでも、今まで完全にスルーされていたような内容なのに、やっていた仕事を止め、メモを片手に真剣な顔で聞いて笑ってくれる。「そんなのメモしなくていいよ」などと言いつつも、決して悪い気分ではない。しかし、こうして「自分のジョークはおもしろい」と勘違いしてしまうと、「空気を読まずに寒いギャグを飛ばす会社の厄介者」道まっしぐらなので、しっかりと自制をして生きていくことが大切だと自分に100万回言い聞かせている。

さて顧問になった室長だが、日々の季節の変わり目を俳句に読んだり、目を細めて静かに我らの仕事ぶりを見守ってくれている：はずもなく、相も変わらなず体ひとつで敷地内に入ろうとするマスコミを押しとどめたり、会議で大立ち回りを演じたりと、「顧問」の定義を根底から覆すいきいきとした活躍ぶりである。むしろ精神力・経験・技術に磨きがかかって一体となり、広報仙人となりつつあるようで、知恵を得たい部署が遠方からアドバイスを求めることも少なくはない。本人も「ほねだお」と言いつつも惜しみなく知恵を授けており、しばらく相談の列が途切れることはなさそうだった。

元室長には広報の知識だけでなく、病院職員としての心得も一から教えてもらった。ゆっくりとおぼつかない足で歩いているお年寄りに車椅子を持って駆け寄ろうとした新人の頃の私に「今何人もの職員がお年寄りを静かに見守っているのかわかるか？ いよいよ危なくなったり、本人が声をかければみんなが駆け寄るから、一生懸命リハビリをしている人の邪魔はすんな。あの人の生活は病院の外でも続くんだ」と諭してくれたのは元室長だ。医療は病院だけで完結するわけではないこと、「ホテルのような病院」というキャッチコピーは珍しくない時代になっても決してホテルのサービスとは同じでないことなど、短い経験だが今でも病院で働くうえで忘れてはいけない心構えだと思っている。

生活のさまざまな知恵も授けてもらった。例えば元室長はよく「二次方程式をしらねえ人間が何人集まっても仕方ねえ」と言う。これは答え、もしくは問題解決のできない人間が何人集まったところで結論がでないことを揶揄しているのだが、会議が長引くたびに思い出す金言である。また「大きいサイズの服を買おうと必ずそのサイズまで自分が成長する」という言葉も最初は笑っていたが、ゆるゆるなトレーナーがだんだんジャストフィットして行くことに気づいてから後悔と共に思い出した。

いつか若い人にも同じように知恵を授けることができるように、何年か前から元室長発言録をまとめている。とてもお見せできない過激な内容でいっばいなのだが、いつの日か本としてまとめて知人に配りたいと思っている。

さて実はこのコーナーは今回をもって、いったん小休止となる。いろいろな方に「読んでるよー」とお声がけいただき、本当にいつもありがたい気持ちでいっぱいだった。次号からは満を持してあの人がシリーズ全4回を執筆予定だ。ぜひご期待いただきたい。

